

| 指摘事項・意見   | 対応  | 備考  |
|---|---|---|
| <b>来館者アンケート</b>   |   |   |
| 1 来館者以外の意見を聞く機会はなかったのか。   | ・中央図書館基本構想策定時に郵送市民アンケートを実施。2回目以降に提示。(資料 2-5)  |   |
| 2 来館者アンケートと非来館者アンケートの結果に差が見られる項目があるがどちらを参考にするのか。                | ・登録率の減少から現状維持だけでなく新しい取組みをおこなう必要がある。   |   |
| 2 アンケートの自由記述についてこちらにすべてのことが出ているが、子育て世代の保護者がお子さんを預けるというニーズはあるのか。 | ・他自治体のサービス展開をみていると潜在的なニーズは感じている。<br>・ <u>これまで3回アンケートを行っている。今回も含め要望の変遷など分析できるのではないかと考えている。</u> |   |
| 3 非来館型のアンケートのLINEの良さは？実施する目的は？<br>限定されるカテゴリーで行うのは？              | ・有効登録者数、実利用者数も減少傾向にある。利用されていない方の声は聞いていく必要がある。郵送は良いが大規模になる。SNSの活用は検討したい                        |   |
| 3 非来館者へのアプローチは困難では。新規登録時はどうか。                                   | ・一つの機会と考えられる。<br>・ <u>カウンターなどで簡易なアンケートが(来館したきっかけなど)登録用紙を工夫して負担なくできるのかを現場と検討したい。</u>           |   |
| 3 課題解決への質問の順番を変えるべきでは。  | 変更をしたい。※  | ※資料 2-10<br>20230322 版_豊中市立図書館来館者アンケート(案) |
| <b>評価及び評価項目表全体</b>  |   |   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p>1 5段階評価の評価の数値・基準は示されているが理解しにくい。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響により目標値を配慮しないのか。</p> <p>2 評価項目に対して重みづけはしないのか</p> <p>・目標値はどのように決めるのか。毎年しないのか。</p> | <p>・5段階評価にいたる数値の資料作成(資料1-4)</p> <p>・図書館での評価の出発点は図書館がやるべき業務を全方位的にどれくらいできているのかをチェックすることから始まっている。</p> <p>・配慮していない。</p> <p>・重みづけではないが、今後は中央図書館基本構想を進捗管理するための指標を盛り込んでいくため重視する指標となっていくと思われる。</p> <p>・目標値は職員との話し合い設定し、評価部会に諮っていく。数値を高くすれば強化すべきことと判断していく。</p> <p>・5年間を想定し最初に設定。途中での変更はしていない。</p> | <p><u>部会長助言</u></p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響によって数値が出てこない項目があるのは当然だと受け止めていますが、他の事例として、何かそういった場合には、括弧付けて評価ランクを付ける、実施できなかったことを示す対応も考える必要性を感じる。</p> <p>・評価項目の重み付けという指摘については、豊中市立図書館が今後どのような機能に重点を置くのかを示すこと。基盤となるサービスを据えずに、理念を見失ってしまうと、根本の質が低下しかねません。全体の取り組みという視点を欠くと、いろいろ展開しても何も残らないという懸念もある。</p> |
| <p>1 広報について</p> <p>・SNSを取り組めなった理由</p> <p>・利用していない人へのアプローチの重要性</p> <p>・メルマガなどでも本の紹介はできる、広報誌も活用すべきでは</p>                                 | <p>・市の配信方針のなかで図書館の配信方針を決め切れなかった。</p> <p>・今後教育委員会のSNSなどを活用し発信していきたい。</p>  | <p><u>部会長助言</u></p> <p>YouTubeの活用に関しても、必ずしも自治体主導でない取り組み方も考えられます。市民の皆さんが活用する中で取り組めることもあるのではないかとこの意見も前回の評価部会で出ていたと記憶しています。あらゆること</p>   |

|  |  |   |
|--|--|---|
|  |  | を図書館が主体になってというよりも、市民の力を活用して取り組める方向でも検討する必要性はある。   |
| 1 自己点検報告書p9の市民協働への記述について   | ・図書館の呼びかけに応じて参加していただいたというのが実態に近い。ただ、意見を伺い交換できる場は可能なかぎり設定したいという点を踏まえて自己点検報告書に記載した。  |   |
| 2 民間委託している図書館など自治体の満足度や来館者の動向を示す調査はあるか                             | ・貸出冊数の推移などから本市として参考にしている自治体はありません。   |   |
| 2 目標値がないものは評価に含んでいないのか   | ・定性評価なり、委員の皆様からご意見をいただいて評価に反映できればと考えている。   |   |
| 2・3 評価の目的がわかりにくい。(評価というより統計ではないか)                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価システムは「公立図書館の任務と目標」をもとに図書館が取り組むべきサービスを実施しているかを確認することからはじまっている。活動指標の羅列になる側面否めない。</li> <li>・市民一人当たりの貸出冊数など他自治体と相対的に比較できる数値を再考する。<br/>日本図書館協会が示す「貸出密度上位の公立図書館整備状況」など※</li> <li>・活動指標を並べたものではなく成果・変化がわかる指標を考えていく。※</li> </ul> | <p>※資料 1-7<br/>貸出密度上位の公立図書館整備状況・2019(日本図書館協会 Web ページより)</p> <p>※資料 1-8<br/>市民意識度調査(概要版)</p> |
| 2 評価項目の見直しがないまま中央図書館基本構想の指標を用いるのか。<br>・中央図書館基本構想の目標水準は図書館で設定したものか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目を見直し、評価のスリム化を図る中で、代表的な指標として6つをお伝えしましたが、それだけに評価指標を絞り込むわけではない。</li> <li>・図書館で概ね設定したものである。</li> </ul>   |   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 3 デジタル化が進んでいるなら、リクエストの分析をおこない蔵書構築に取り組んでいるのか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・100 万件の予約があり、ニーズや傾向などノウハウは蓄積されている。</li> <li>・図書館の場合、リクエストへの対応に焦点を当てるだけでなく幅広い選書にこたえていくことも必要と考えている。</li> <li>・費用が別途かかるが、返却台にアンテナを埋め IC タグを読み込み、どの本が読まれたかの傾向をみている自治体もある。</li> </ul> |  |
| 3 目標値へのアプローチ                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終年にすべきか、平均とすべきか。今後の建物更新を考えて想定する必要がある。</li> </ul>  |  |
| 評価項目表(個別)について                                |  |  |
| 32-1<br>「迅速・的確に」に該当する指標がないのでは                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは「迅速・的確」に対して、提供率を提示しておりました。指標を再度入れなおすなど検討します。※</li> </ul>  | ※資料 1-9<br>20230322 版_新評価項目表 (R4-)                       |
| 32-1-12<br>データベースの利用件数。                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット情報へのアクセスの項目については変更を検討します。</li> </ul>  |  |
| 32-1-13~16<br>レファレンス協同データベース                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス件数ではなく、データベース内での順位どの表記や自己点検報告書の際に順位に変遷を記すなど工夫をはかりたい。</li> </ul>  |  |
| 32-2-5<br>広域利用統計と評価の関係                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館構想では、「広域連携の推進」を重点的な取組みと掲げている。推進をはかるには利便性の向上にはシステムの共同調達、資料の効果的な保存など運営面での連携が求められるが、数値で見せることができないことが多い。連携の推進を示す活動指標のひとつとしてこの数値を用いている。</li> </ul>                               | 部会長助言<br>北摂地域は生活圏域と行政区域が合致しない傾向にある。多い少ないでどう測るのか難しいところがある |
| 32-4-1<br>学校図書館への資料                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習のサポートパックの提供の際、学校司書、教員から利用後アンケートをしている。※</li> </ul>  | ※資料 3-2<br>サポートパック返却確認票                                  |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 統計的把握とともに活用度などが大事では。人材育成の達成度のできるのでは                        | 達成度や満足度として活用できるか考えていきたい。   |  |
| 32-5<br>相互貸借はなにを指しているのか                                    | ・図書館間で資料を融通し合う仕組みで図書館サービスの一つである。自治体間など借用など変更を検討する。   |  |
| 32-5<br>相互貸借を評価に入れる理由は？職員の仕事を PR するためか。障害ある人が利用した<br>が大事では | ・相互貸借は、利用の活発さと、ニーズに沿った音訳図書等を作成、提供をおこなっていると考え数値を示している。  |  |
| 32-7 1-2<br>市民協働と市民参画の関係                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2-7 はともにお互いの立場から事業・行事などを実施した回数を集計している。</li> <li>・図書館協議会は岡町図書館長の諮問機関であり、市民の委員など様々な意見を伺い議論することは参画と考えている。</li> <li>・参画に対し Web ページの閲覧数という指標が適正か考えるところ<br/>はあり、定性評価をしていく必要はある。ただ、年3度図書館協議会<br/>を開催、・評価部会の部分も含め Web アクセス数は常時あり、他自<br/>治体から問い合わせもあることから一定数字を示しておきたい。</li> </ul> |  |
| その他  |  |  |
| 2事務局から<br>コロナ禍における図書館のはたす役割。情報アクセスの保障は。それをどのように評価<br>するのか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館で情報リテラシーの育成に取り組んでいる。、評価指標<br/>としては得たい情報が得られたのか、役立つ情報が手に入ったのか<br/>どうか、そういう点を量ることになるのではないか。</li> <li>・経営支援をするなかで、補助金提供者から支援対象に直接アンケ<br/>ートが実施され、「課題は解決したかしなかったか」という設問で、明</li> </ul>   | <u>部会長助言</u><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の並列状態の中から必要かそ<br/>うでないかを判断するのは、図書館が<br/>はたせる役割（窓口）もあるように感<br/>じる。どのように評価するのかは確か</li> </ul> |

|  |  |   |
|--|--|---|
|  | <p>確に支援事業の成果が測られる仕組みになっている。ただ、一方で事業内容が市民に知られているのかは図書館と共通認識である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・調べることは技術がいる、代わって調べるは司書の専門分野だからはそういう技術を活用して指標としたり、情報発信していけばいいのではないか。</li><li>・掲示板による情報発信は見える化の取り組みとして高齢者にとって助かる試みである。</li></ul> | <p>に簡単ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一定年齢以上は情報教育を受けているが、市民の間で差も生じているように思う。自由意見欄にも「も調べ方を知りたい」という意見もあった。レファレンス協同データベースに挙がっている事例も活用できるのではないだろうか。</li><li>・現代社会の課題として、日常範囲の知見で物事を判断するのに止まっていて、より広い視野から解決を探ることができにくくなっているというのは指摘されている。</li></ul> |
|--|--|---|